

(仮称)やまと芸術文化ホール 基本構想への提言  
目次案と検討内容について(案)

・芸術文化ホールの必要性

1. 芸術文化活動を取り巻く状況

2. 全国的な芸術文化施設の傾向

(1) 施設面での傾向

第 1 回検討委員会資料(1)

(2) 事業運営面での傾向

参加型事業の増加(2)

3. 近隣のホール設置状況

(1) 設置状況

(2) 稼働状況

(3) 文化活動状況

4. 芸術文化ホールの必要性

(1) 市内既存文化施設の現状

民間施設も含めて検討する。(2)

(2) 市内文化活動状況

市民による自主的な文化活動(各地域の学習センター)(2)

行政による芸術文化事業(財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団)(2)

民間施設(ホール・ライブハウス等)における活動(2)

(3) 市民のニーズ

現在実施中のアンケート調査結果の反映。(1)

大和市のさまざまな状況を調べる。芸術文化関連の状況だけでなく、人口分布、地理的条件、交通、企業、公共施設、商業など市民生活にかかわるあらゆる項目を明確にする。(1)

(4) 芸術文化ホールの必要性

ホールの必要性を再確認する。(1)

いくら投資するのか、維持できるのか、対象がプロかアマかの棲み分けはイメージを持っておく必要がある。(2)

広場も劇場になりうる。劇場というハードは必ずしも必要ではない。(2)

(5) 大和市の文化振興への展望

現状の文化状況だけで判断するのではなく、オープン後の 10 年、20 年後の将来像を描く。(1)

今後、文化振興マスタープランや条例を検討し、それらと施設運営とを結び付けていくことが必要。(2)

市内施設との連携・機能補完を図りながら、どう活動を育てていくか。(2)

文化振興の中長期的なプランを基に、劇場運営の長期計画を立てるべき。(2)

## . 基本コンセプト

## 1. 基本コンセプト

- すべての市民が来館する仕組みづくり(1)
- 若い世代も含めた文化の核となる拠点施設(1)
- 「居心地の良さ」と「風格」の両立(1)
- 観客あるいは観客となる一般市民のための施設づくりと事業計画(1)
- 舞台芸術に限定しない劇場と、その結果として地域活性化をめざした運営(1)
- 文化芸術に触れる機会のない市民に機会を提供する。(1)
- 子ども、青少年、高齢者、障がい者などこれまで文化施設を訪れる機会が少なかった市民が集まる施設とする。(1)
- 市外からの来街者が増えることで、経済効果等がもたらされ、まちが元気になる。(2)
- ホールを発表の場ととらえるか、鑑賞の場ととらえるか。(2)
- ホールにどのようなミッションを与えるのか、またミッションを実現させる意思を行政自らが持つことが重要である。(2)
- アマチュア活動のステップになり、活動を続ける動機付けになるような展開を検討したい。(2)

## . 事業計画の基本方針

## 1. 事業計画の基本方針

- 新たな事業を起こすことにより、新たな芸術文化活動に発展させる可能性も生まれる。(1)
- 良質な事業を低料金で提供する。(1)
- 新劇場が新たな観客を開拓する。(1)
- これから文化活動に取り組む可能性のある市民、利用者側を掘り起こしていくような運営。(1)
- 観客を育てる事業。(2)
- 市民がアートを通して人間形成をしていくきっかけづくりとなる事業。(2)
- 「いいもの・いい作品に出会いたい」という市民の自発的な欲求を呼び起こす事業。(2)

\* 「市民ニーズ」や市内の文化活動の状況などを参考に、望まれる事業の分析や新たな事業の可能性について検討したい。

## 2. 事業実施の目的

- 学習センターで行われ、定着している文化活動と、本施設の活動の連携が必要。どう共存し、どう運営するか。(2)
- 子どもに本物の舞台芸術に接する機会を提供し、子どもの心の成長に寄与する。(2)
- 事業を通して、市民が様々なことを感じ、考える力を養うことをサポートする。(2)
- 「鑑賞する」というアートへの参画にも配慮し、鑑賞する側のニーズの把握に努めることが必要。(2)

## . 管理運営計画の基本方針

## 1. 組織計画の基本方針

- 事業運営、技術管理ともに、専門家を配置する。(2)
- 公演を名実共に成功させるには、熟練したスタッフが必要。(2)
- 「ホール機能」(大小2つ)、「創作支援機能」(稽古場等)を持ち、十分な運営組織を整えることで、施設全体がフルに活用される。(2)

## 2. 広報宣伝計画

これから行われる事業の広報宣伝はもちろん、行われた事業についても周知し、市民がホールで行われている事業を認知している状況を浸透させる。(2)

## 3. 管理運営規則

## 4. 収支計画

ホールを最良の状態で運営するために十分な予算を充当する。(2)

## . 施設計画の基本方針

## 1. 施設計画の基本方針

市民の芸術文化活動拠点として最適な客席数と施設構成を検討する。(1)

長期的な視点で施設計画を考える。(1)

古い施設の改修とあわせて検討する。(2)

建設予定地の検討に際しては、現状とホールが建設された際の効用との比較検討が必要。(2)

市民誰もが正面から気軽に入れる、開かれた施設。(2)

\* 「文化振興への展望」と関連付けながら、修繕・改修計画を重要な前提条件と位置づけ、長年愛され親しまれる施設としてのあり方を検討したい。

## 2. 望まれる立地条件

来館のしやすさ、周辺施設との機能補完など、望まれる立地条件の検討を行う。(1)

敷地を選ぶ場合は、現在の使用状況と劇場ができた場合の効用とを比較する。(2)

既存施設の建て替えの場合には、建設期間中既存施設が利用できないという問題がある。(2)

南北に長い市の特性に配慮した配置を検討する。(2)

来場者のアクセスに配慮した配置を検討する。(2)

来館者の利便性への配慮(2)

公共交通機関や自転車での来場の便のよさへの配慮。(2)

車だけに依存した施設では、大規模駐車場の確保や、周辺道路の混雑などの問題もあり、好ましくない。(2)

飛行機の騒音に配慮する。(2)

~ の検討を受けて必要となる機能および面積を明らかにしながら、都市計画的な視点と併せて敷地検討を行いたい。

## 3. 部門構成

ホール以外の複合機能の検討を行う。(1)

施設の複合化(周辺施設との合築等)を視野に入れて検討する。(施主が複数になり、調整が難しいが、機能が複合されることにより、市民が足を運びやすくなる。)(2)

「ホール機能」(大小2つ)、「創作支援機能」(稽古場等)を持ち、十分な運営体制を用意することで、施設全体がフルに活用される。(2)

来館者にとって居心地が良く、日常的なにぎわいにつながる複合機能を併せ持つべきであり、その具体的な機能について検討したい。

## 4. 各部門計画

市民の芸術文化活動拠点として最適な客席数と施設構成を検討する。(1)

## (1) ホール計画

ホールの性格づけを明確にする。また、グレード設定も明確にする。(1)

市民の利用に配慮し、800 席程度としたい。(1)

800 席では単独で開催する発表会としては規模が大きい。また、鑑賞型の事業を招聘することを考えると、800 席では規模が小さい。(2)

市民が単独で開催する発表会を想定すると、聴衆は常時 100 名程度であることが予想される。(2)

ホールは大小 2 つのホールとし、鑑賞条件、上演側が求める機能の両方に配慮する。(2)